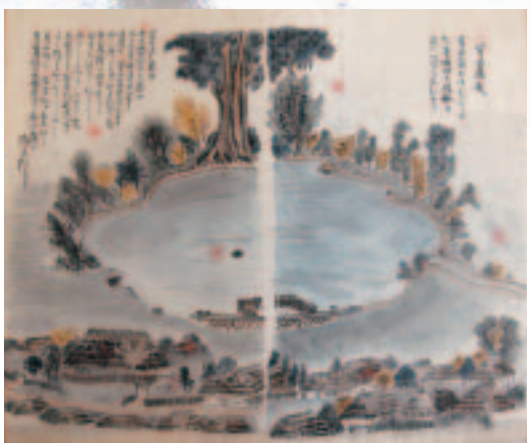
美郷めぐり『湧水探訪』

星山清水

旧千屋小学校本堂分校（現本堂城回会館）の敷地にあり、「学校のしず」とも呼ばれる星山清水。『月の出羽路』では、星山源蔵という名の武家の敷地にあると記されている。



奥羽山脈のふもとにある私たちの美郷町には、名水百選に指定されている六郷湧水群をはじめ、数多くの清水が点在しています。

普段、何気なく通っている道路のかたわらや、神社や寺院の境内で湧きつづける清水。それらの清水の多くは、奥羽山脈の西端に連なる真昼岳・女神山や黒森山などを源にした河川のはんらんにより、土砂が運搬・堆積し、気の遠くなるような時間をかけて形成された扇状地の扇端部において地表に湧き出てきたものです。

町内各地から出土する古代の遺品は、縄文時代にこの地に住んだ私たちの祖先が、河川の周りや湧水の近くに集落を築き、やがて弥生時代に入り稲作を始めたことを物語っています。自然の力で形成された豊かな大地と水利の良さ、豊富な湧水があるこの地は稲作にもっとも適したところといえます。

そして、この豊かな水環境は、現代においても変わることなく、生活用水や農業用水として、私たちの生活を支える貴重な資源となっています。

昨年度、春夏秋冬の4回シリーズで行われ、延べ108人の参加者の皆さんと、町内の行事や施設を散策した「美郷めぐり」。ことしは、「湧水」と「歴史」をテーマに2回シリーズで実施することになりました。

ここでは、7月2日(日)に実施する「美郷めぐり『湧水探訪』」で訪れる予定の清水を紹介するとともに、江戸時代後期に菅江真澄によって書かれた、当時の清水の様子をご覧いただきます。

◆

悠久の昔から湧きつづける清水を「美郷めぐり『湧水探訪』」で見学してみませんか。今回の美郷めぐりでは、ここで紹介した清水を参加者の皆さんとバスでめぐります。当日は、町の花である「ラベンダー」が咲き誇る千畑ラベンダー園にも訪れます。初夏の美郷町を満喫できる絶好の機会です。皆さんの参加をお待ちしています。詳細については4ページをご覧ください。

藤清水

かつて、この近くに三つの蔵が建っていたことから三倉清水ともいわれていたが、いつのころからか周辺に咲く藤の花の見事さから藤清水と呼ばれるようになった。一説には武士の下屋敷庭園であったとも伝えられる。

現在は、当時の様子を再現しようと、近くを流れる御伊勢堂川沿いの散策路に藤棚が作られています。

真澄は『月の出羽路』にニテコ清水の写生図を載せて、その上に「似手児清水、大町の南に在り、亘(あた)り三尺斗(ばかり)なる泉ながら、いかなる旱魃(かんばつ)にも減ずる事なく、水いやましぬ。六郷第一の名水なるべし」と記しています。

明治天皇御巡幸(明治十四年)の時には、この水を差し上げたことから「御膳水」ともいわれ、現在は県内外から多くの観光客が訪れる清水のひとつです。

写生図の上に「志津(しず)川」と記されている、仙南地区小出(おいで)にある天神堂の清水川。真澄がこの地を訪れた当時、この地域一帯の農業用水あるいは生活用水として欠くことのできない重要な流れであったことが推察できます。

本文で使用している写生図は、学友館所蔵の写本『月の出羽路』によるものです。

菅江真澄とは

菅江真澄は、江戸時代末期の享和元年(一八〇一)から文政十二年(一八二九)まで、二十八年間にわたり、久保田藩内(現在の秋田県)を巡りながら、それぞれの土地の歴史や行事・神社仏閣などを調査記録し、膨大な量の巡察日記を残しました。現在の美郷町内についての記述も多く残され、当時の様子を知る上で貴重な資料となっています。

真澄が残した地誌『月の出羽路』の中で、美郷町内の清水のいくつかは、色あざやかな写生図とともに記述されています。これらの清水は、周辺の様子は変わっても、いまも変わるとなく湧きつづけています。